

雪も降らず競技は戦い、冬の寒さの中も勝利の喜びもあふれる

第9回スノーフェスティバル 冬の大会

開催！冬のスノーフェスティバル！

2月4日（日）、北斗スポーツクラブ（N.O.S.S）の主催により、運動公園自由広場にて「第9回スノーフェスティバル 冬の大会」が開催されました。

2023年の夏は、全国各地で記録的猛暑となり、世界各地でも異常気象が目立った年となりました。そして、北斗市の冬でも例年より気温の高い日が続く、降雪量も少ない年となりました。

会場の積雪も心配でしたが、数日前の降雪によりコンディションも整い、無事に開催することができました。当日は、約80名の参加者が雪中での競技を楽しみました。

スノーフェスティバルの様子

当日は、氷点下とはいえ、垣間見える青空の下、午前10時から開会式が行われました。ラジオ体操で身体をほぐした後、全7種目の競技を行いました。

1種目目の「スノーフラッグ」では、幼児の部10歳、小学生の部15歳、一般の部20歳地点に設置した旗を取り合いました。

た。真剣勝負の中にも、笑顔があふれる競技となりました。

2種目目は、一般の部による「ひっぱり相撲」、3

種目目は小学生の部による「手押し相撲」を行い、大人

も子どもも巧みな駆け引きにより、息を呑む好ゲームが続出しました。

4種目目は、椅子の代わりに設置されたビート板に座る「椅子取りゲーム」を幼児の部と小学生の部に分けて行いました。音楽に耳を澄ませる子どもたちの表情は真剣そのものでした。

5種目目は、参加者全員を2つのグループに分けて「雪中綱引き」を行いました。昨年は、延長戦に突入し、会場を大いに盛り上げたメインイベントです。

今回は、勝敗を決めずに綱引きを2回楽しく行うというルールに変更し、大人



旗を目掛けて一直線！

と子どもが力を合わせて一生懸命に綱を引く姿が印象的でした。

6種目目は、市ふるさとかるたを利用した「ラッキーかるた」を、幼児の部と小学生の部に分けて行いました。今年は、ぶつかり合う危険を回避するため、好きなかかるたを先に選び、読み手が選んだかるたを読み上げたら勝ちというルールにしました。

7種目目は、障害物競争や運命走を融合させた「ドキドキリレー」を全員参加で行いました。たくさん身体を動かし、走り切る子どもたちの姿に逞しさを感じました。

閉会式では、景品を獲得した子どもや大人に温かい拍手が送られ、和やかな雰囲気となりました。参加した子どもたちには参加賞として「ヒップソリ」が配られ、寒さに負けず屋外で元気に遊んで欲しいとの願いが込められたプレゼントでした。

今回も、素晴らしい天候の中で怪我や事故もなく楽しいイベントを終えられたことを運営スタッフ一同感謝しております。また、恒

例になった豚汁の提供は、冷え



子どもに負けられない真剣勝負

切った体に染み渡り、大好評でした。

誰でも参加できる事業を目指して

・アダプテッドスポーツとは？

アダプテッドスポーツとは、一人一人の発達状況や身体の状態に「適応（あてあ）」させた「スポーツのことです。障がい者や高齢者なども参加できるように既存のスポーツを修正したもの、新たに創ったものを指します。ルールや道具を工夫して誰もが平等にプレーできるようにしたスポーツ全般を指します。

・パラスポーツとの違い
パラスポーツとは、いわゆる障がい者スポーツのことを指し、車いすバスケットボール、シッティングバレー、ゴールボールなど、ルールなどが確立されているスポーツ種目のことを指します。

アダプテッドスポーツとは、特定の種目を指すのではなく、身体の状態や年齢など、『スポーツをそれぞれの人に合わせる』という考え方で、できないことを考えるのではなく、『どうすればいいのかを考えること』が大切です。アダプテッドスポーツの導入により、多様な人々が楽しめるスポーツイベントの造成も今後の課題として取り組んでまいります。

（北斗市スポーツ推進委員

中島 僚太）